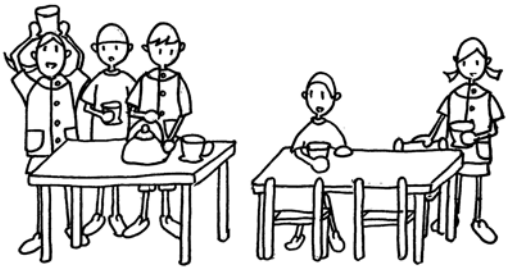
みくにだより

No.764 令和７年８月１日発行



「あなたの元気は私の元気」

暑い日が続いていますが、体調を崩されていませんか。子育て、家事、仕事、勉強、療養、介護……毎日本当にお疲れ様です。水分、塩分をとりお体に気をつけてお過ごしください。

ではここで、今月も園内であったほっこりするエピソードをご紹介します。ここでは体ではなく心を温めましょう。

○保育ボランティアに来た高校生に、歌の最中、一言
「このきょくしってる？　わかる？　だいじょうぶ？」
この高校生は帰り際、「子どもが気を使ってくれたんです。小さい子どもが気を使ってくれたことにびっくりしました」と話していました。未来を担う若者が子どものすごさを感じてくれたことは嬉しいことでした。子育ての大変さや尊さを理解してくれる人が社会に一人でも多くなることを願いながら、つい子どものすごさを熱弁してしまいました。

○登降園時に門を通る際、ポーズをとって挨拶
「おはようございます」「さようなら」と挨拶をすると、そのお子さまは片膝をあげ、手を顔の前で曲げ、カマキリのようなポーズをして応えます。このお子さまにとっては、立派な挨拶なのです。少しずつ変化が見られ、数日経つと自分からそのポーズを見せてくれるようになりました。さらにその数日後のことです。「おはようございます、あっ」と言い、口を押さえたのです。その直後、いつものポージング。微笑ましかったです。

本当は「おはようございます」もちゃんと言えるのです。挨拶のひとつも、子どもはちゃんと、わたしたち大人のことを見て聞いています。それが姿として見えなくても、いや、見せなくてもちゃんと持っているものがあるのです。子どもの秘めた力です。それを確信した、良い場面でした。

このように、わたしは子どものもっているものや主体性を大切にしたいです。モンテッソーリは、子どもは「できないのではなくやり方がわからないだけ。どうすれば自分でできるかやり方を教えてあげる」「大人がして見せる」ことが大事だと言います。２つ目にご紹介したお子さまも、周りの大人から教えてもらい、挨拶を知ったがスタート→自分なりのポーズをとるのです。周りの大人に受けとめてもらった、この大人からの“受容”も欠かせません。この様子を、訂正や否定をすることはせず、穏やかに見守っている、受容してくれる保護者の方がいることも、お子さまにとって幸せなことです。

そして、もうひとつ。

○言葉が出始めたお子さまとのやりとり
ミニカーを走らせています。ちょうどその延長線上に座っていたわたしに「どーいーて」と言います。「いーいーよ」と似たリズムで返し、少しよけて通れる道をつくりました。にっこり嬉しそうな表情を浮かべ、わたしの前を通り過ぎ、気持ちよく走らせ続けます。また来ました。「どーいーて」「いーいーよ」またまたすぐに来ました。どうやら、ミニカーを走らせることではなく、自分が言ったことに対して他者が応答してくれる・動いてくれることを喜び、楽しんでいるように見えました。少し意味合いが違いますが、これも「大人がして見せたことで変化が生じた場面」と言えると思います。

これが、子どもの育ちの過程です。わたしたち大人の、何がきっかけになって子どもの育ちを促すかわかりません。なので、アンテナを張ってキャッチしながら子どもと関わることが深く楽しいとは言うまでもありません。大人との関わりを通して、「なんだかたのしいな」「またもっとやりたいな」「つぎもたのしみだな」それが子どもたちの基盤に、根っこになるのです。

１学期も本園の教育・保育にたくさんの方々がご協力くださいました。珍しいカブトムシやクワガタの観察・育て方を教えてくださったお祖父様、バスケットの楽しさやコツを教えてくださった保護者の方、園内でかぼちゃを一緒に育ててくださる卒園生のお祖父様、子どもたちに「自分の元気が誰かの元気になる」と優しい歌声を通して教えてくださったエコメロディコンサートキャラバンの皆様……この場を借りて御礼申し上げます。きっと、一人ひとりの根っこになっていることと思います。

今年度もまだまだ続きます。これからも子どもたちがたくさんの根っこに出逢えるよう教育保育にあたってまいります。